

1. はじめに

この調査は、学生一人ひとりの学修行動、経験、学修成果を把握し、調査によって得られたデータは、大学が提供する教育・学修支援の改善と、学生個別の成長測定 や学習指導のための資料として使うことを目的とする。

2. 平成29年度アンケート調査

アンケート調査期間は、平成29年9月14日(木)～9月30日(土)までとし、主に後期ガイダンス日に各学科の担任の協力の下で実施した。表1にH28年度とH29年度の学科別・学年別の回答率を図1・図2にそのグラフを示す。

表1 H28年度とH29年度のアンケート回答率

	1年		2年		3年		4年		大学院1		大学院2											
	H28年		H29年		H28年		H29年		H28年		H29年											
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	実施していない	回答数	回答率	実施していない	回答数	回答率								
デザイン	7	21.2%	53	91.4%	35	53.8%	27	87.1%	22	50.0%	51	79.7%	18	43.9%	27	61.4%	実施していない	3	20.0%	実施していない	1	50.0%
建築	55	75.3%	63	75.0%	25	35.2%	8	12.1%	15	32.6%	0	0.0%	22	40.0%	23	48.9%						
経営	61	75.3%	111	82.2%	57	58.2%	54	71.1%	60	74.1%	64	64.6%	55	55.0%	51	55.4%						
合計	123	57.3%	227	81.5%	117	49.1%	89	51.4%	97	52.2%	115	50.2%	95	46.3%	101	55.2%		3	20.0%		1	50.0%

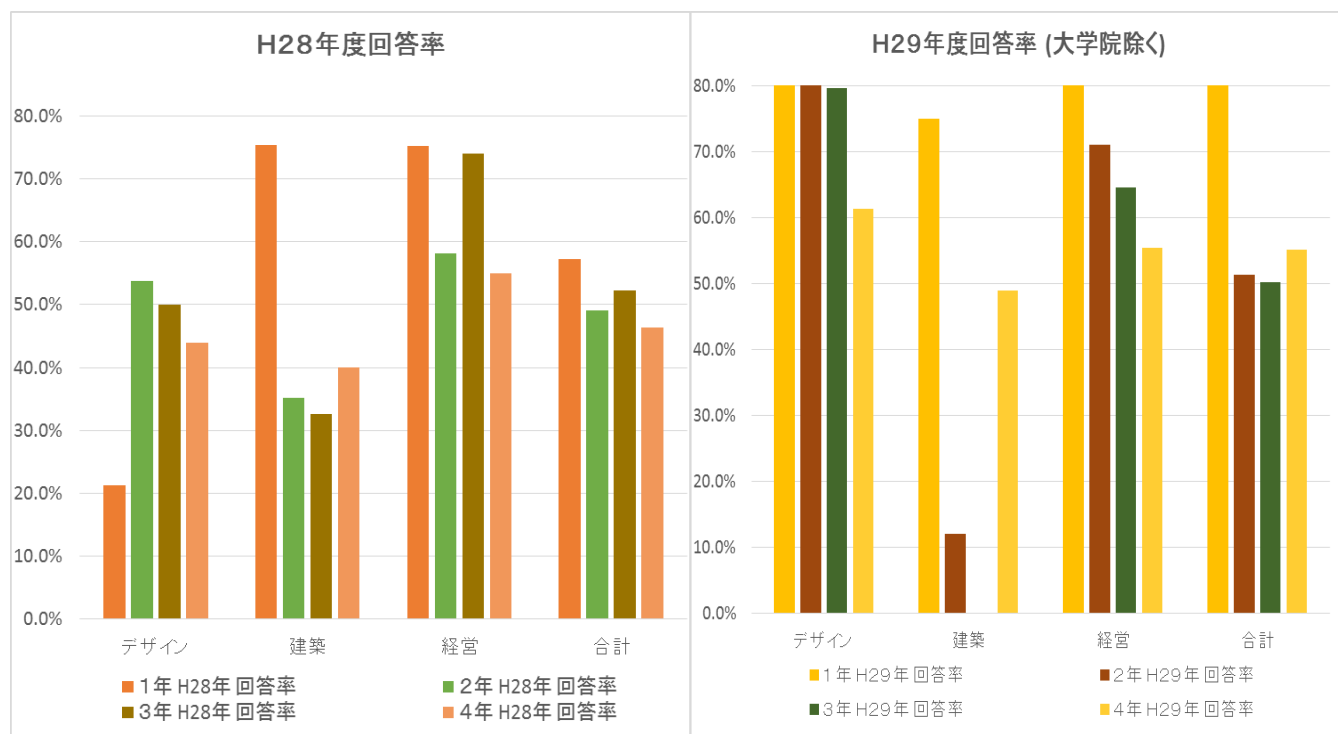


表1 H28年度学科別  
学年別回答率

表2 H29年度学科別  
学年別回答率

資料[1]に示すように、質問1から質問10までは学修に関して行動を取ること、質問11から質問20までは学修で経験をしたかを問うもの。質問21から質問35までは学修した成果があったかどうかを問うものである。これらは自分自身が感ずると思ったものを自己申告として「YES」「NO」で答えるものであり、顧客満足度としてとらえることができる。

- 学修行動に関すること
- 学修経験に関すること
- 学修成果に関すること

### 3. アンケート分析

#### (1)重回帰分析

ここでは、「学修行動に関すること」、「学修経験に関すること」、「学修成果に関すること」に影響を与える要因として度合いの大きいものと小さいものを探し出す。

#### ① デザイン学科1年

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

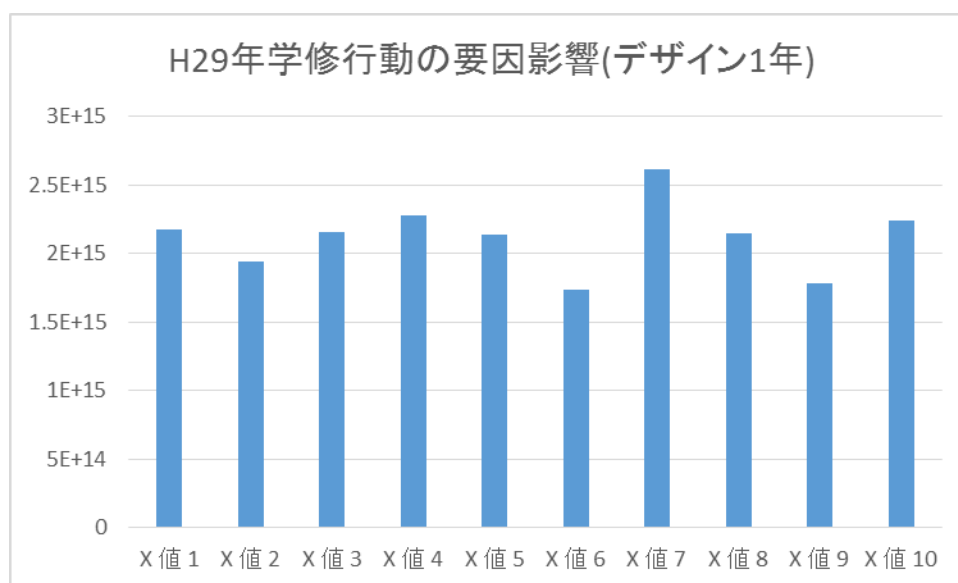


図3 デザイン学科1年 学修行動の影響を与えている要因

図3では質問7が1番影響をあたえている。逆に質問6と質問9が小さくなっている。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

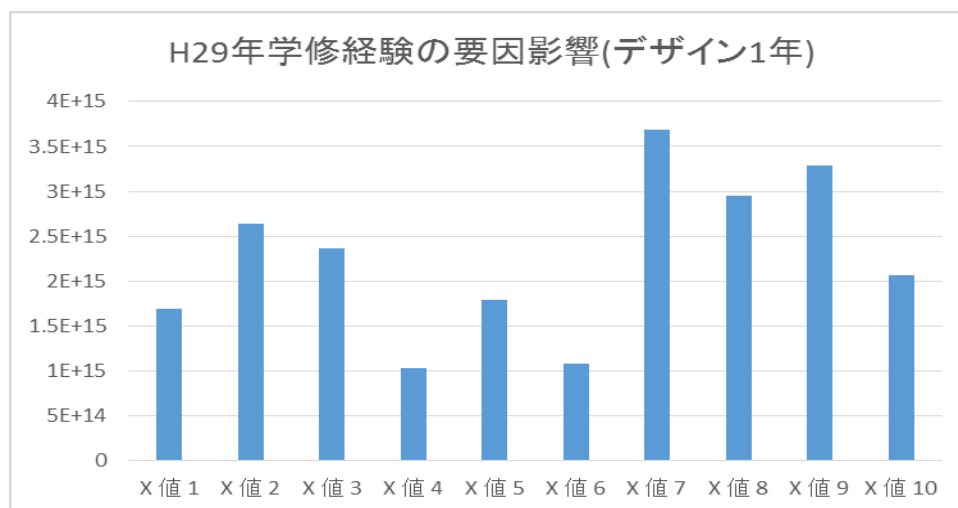


図4 デザイン学科1年 学修経験の影響を与えている要因

図4では質問17が1番影響をあたえている。逆に質問14と質問16が小さくなっている。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

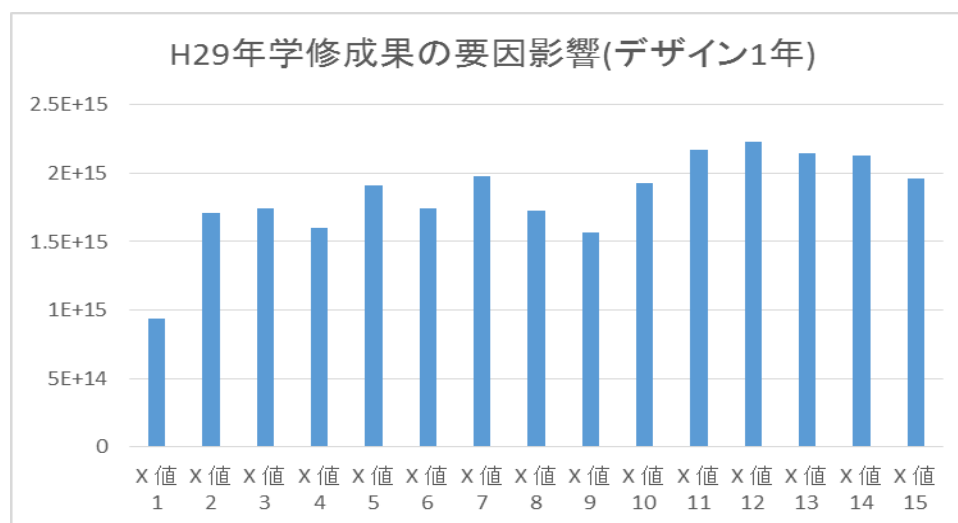


図5 デザイン学科1年 学修成果の影響を与えている要因

図5では質問32が1番影響をあたえている。逆に質問21が小さくなっている。

## ② 建築学科1年

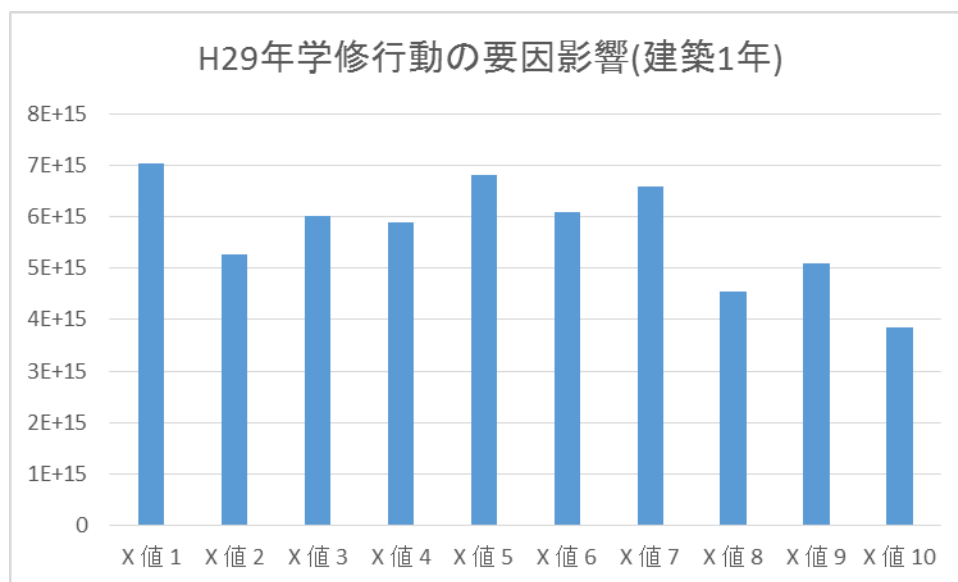
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$ 

図6 建築学科1年 学修行動の影響を与えている要因

図6では質問1、質問5が強く影響を与えている。逆に質問10が小さい。

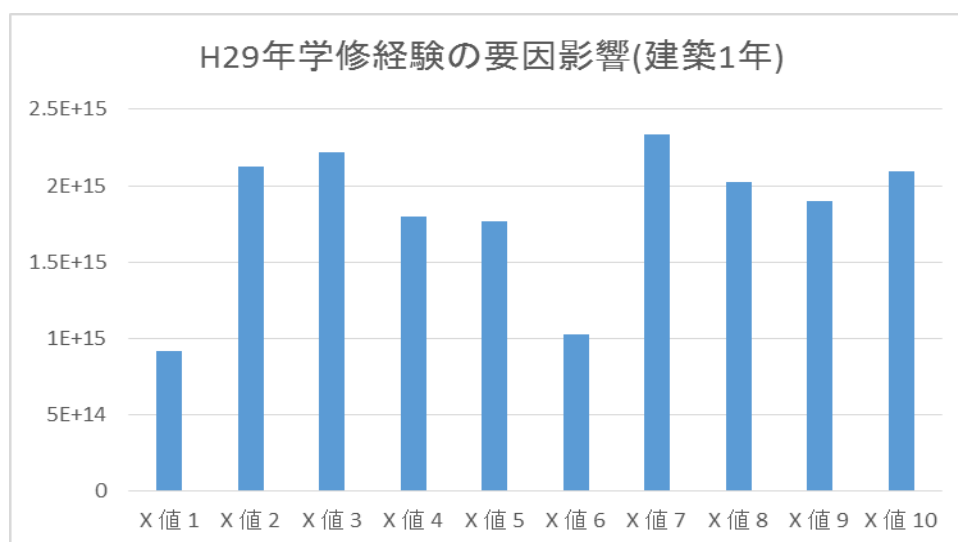
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$ 

図7 建築学科1年 学修経験の影響を与えている要因

図7では質問17が影響を与えている。逆に質問11と質問16が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

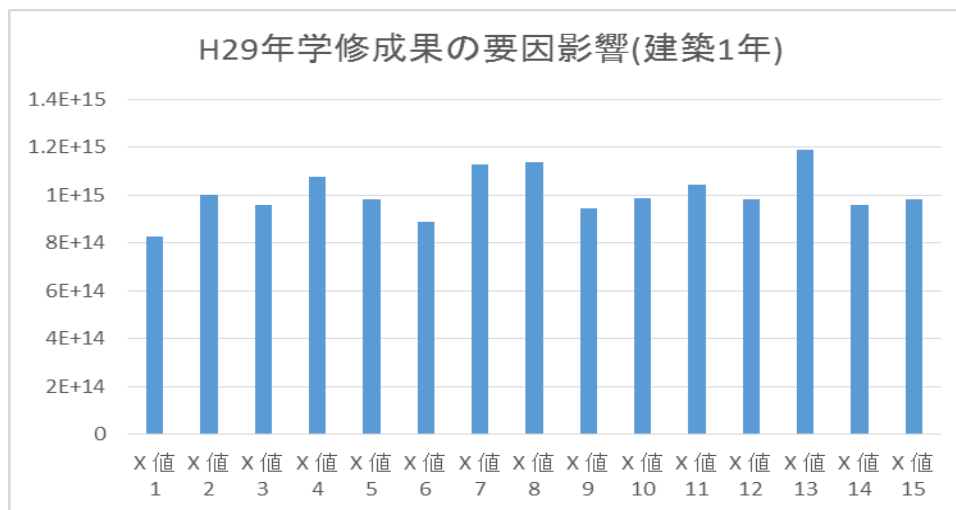


図8 建築学科1年 学修成果の影響を与えている要因

図8では質問33が強く影響を与えている。逆に質問21と質問26が小さい。

③ 総合経営学科科1年

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

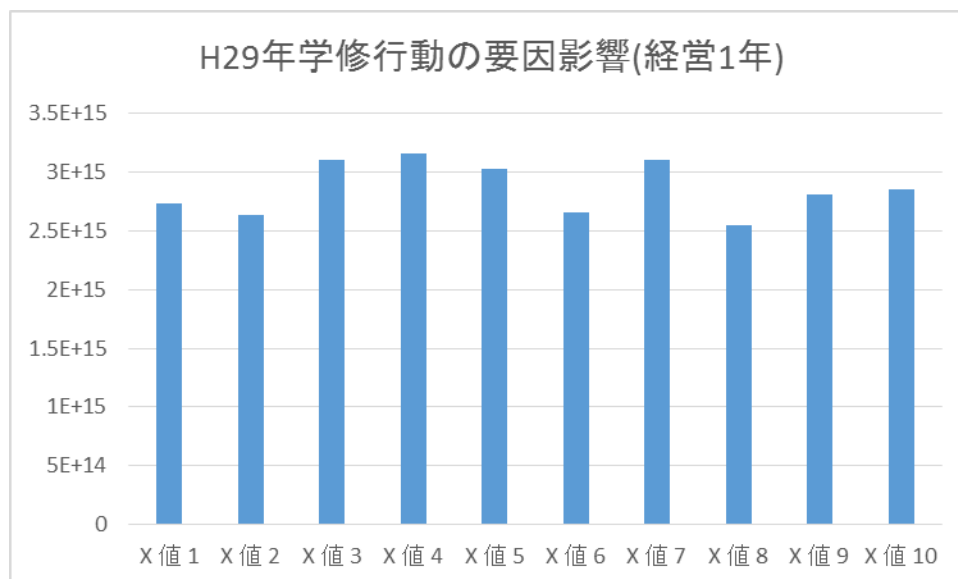


図9 総合経営1年 学修行動の影響を与えている要因

図9では、質問3、質問4、質問7が影響を与え、質問2、質問8が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

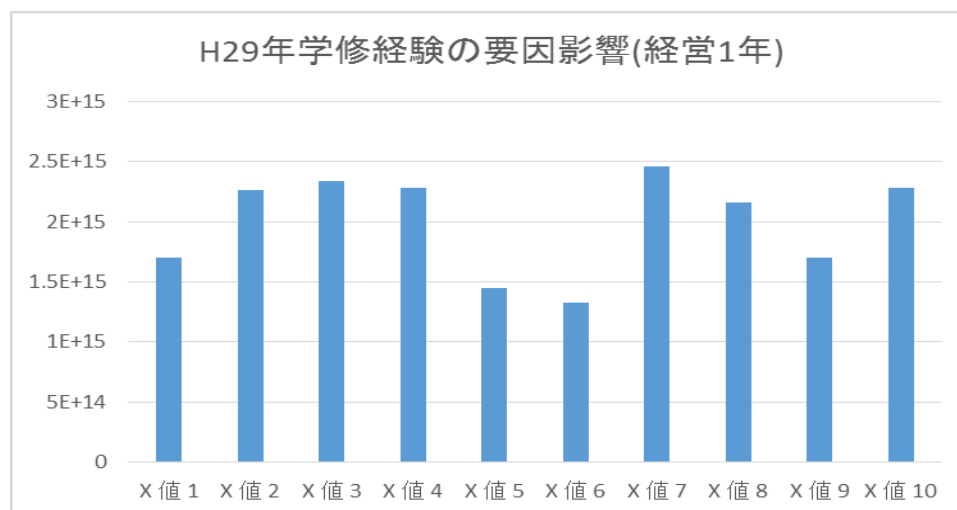


図10 総合経営1年 学修経験の影響を与えている要因

図10では質問17が一番影響を与えている。逆に質問16が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

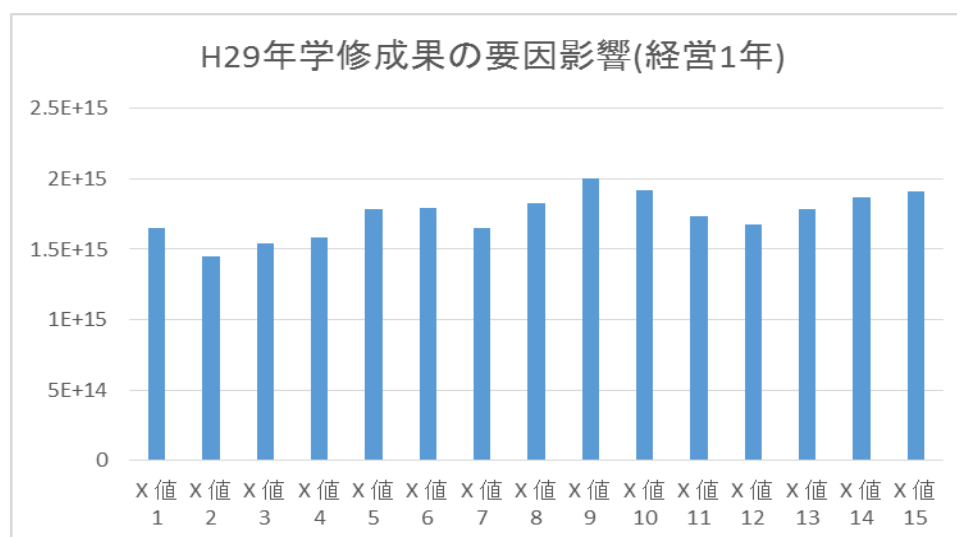


図11 総合経営1年 学修成果の影響を与えている要因

図11では質問29が一番影響を与えている。逆に質問22が小さい。

#### ④ 大学院1年

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

## ⑤ デザイン学科2年

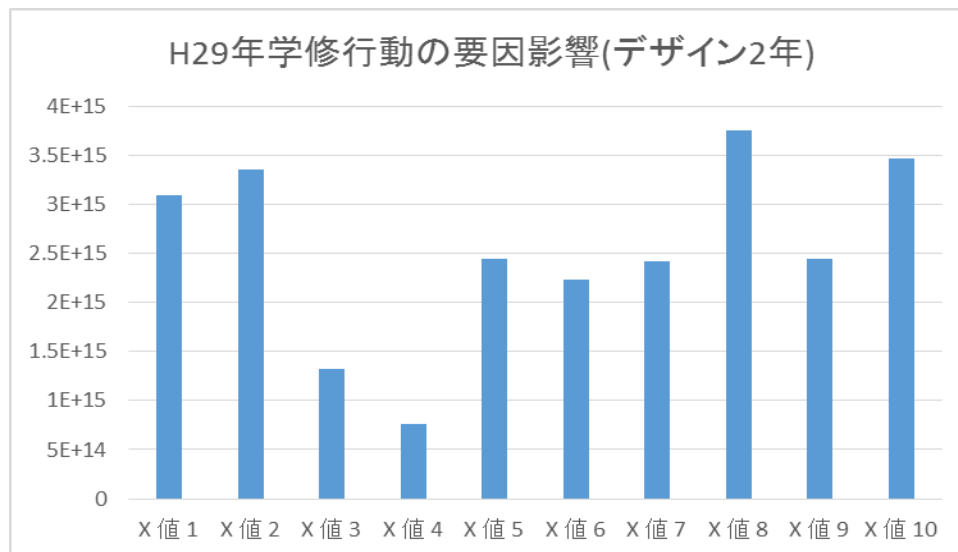
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 3.2384553760829E-248 < 0.01$ 

図12 デザイン学科2年 学修行動の影響を与えている要因

図12では質問8が一番影響を与えている。逆に質問4が小さい。

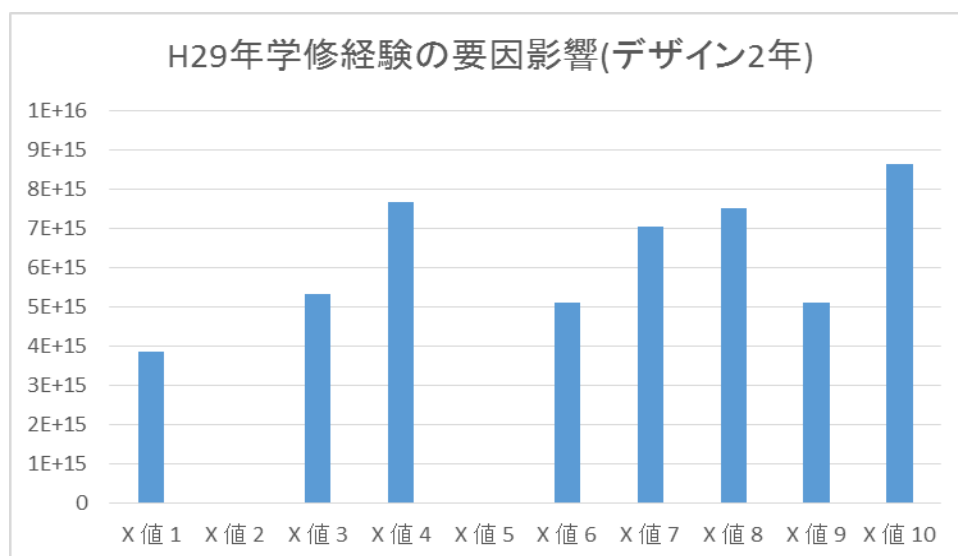
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 3.56563704698262E-250 < 0.01$ 

図13 デザイン学科2年 学修経験の影響を与えている要因

図13では質問20が一番影響を与えている。逆に質問12と質問15が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 8.61059781545496E-170 < 0.01$

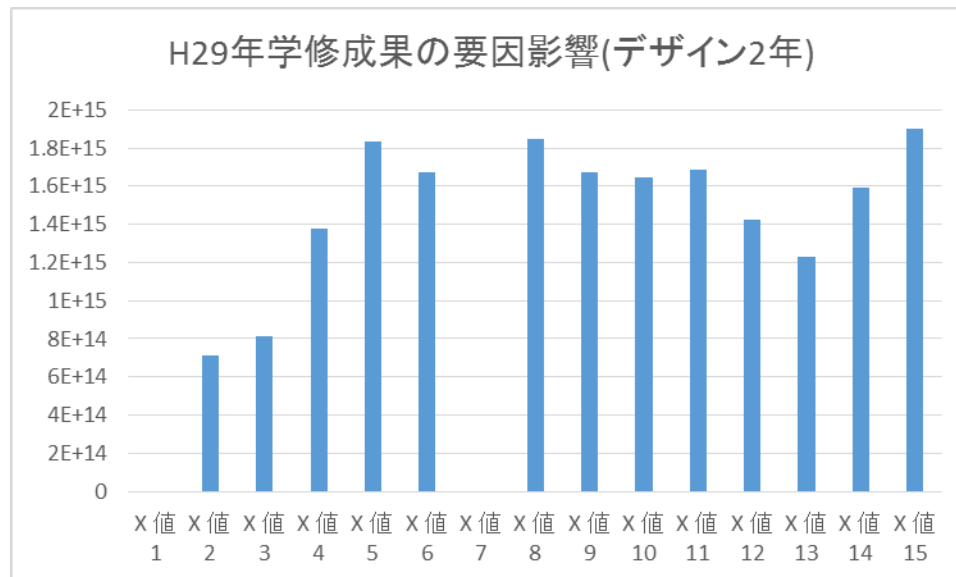


図 14 デザイン学科 2年 学修成果の影響を与えている要因

図 14 では質問 35 が一番影響を与えている。逆に質問 27 が小さい。

⑥ 建築学科 2年

■学修行動

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

■学修経験

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

■学修成果

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

⑦ 総合経営学科 2年

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$



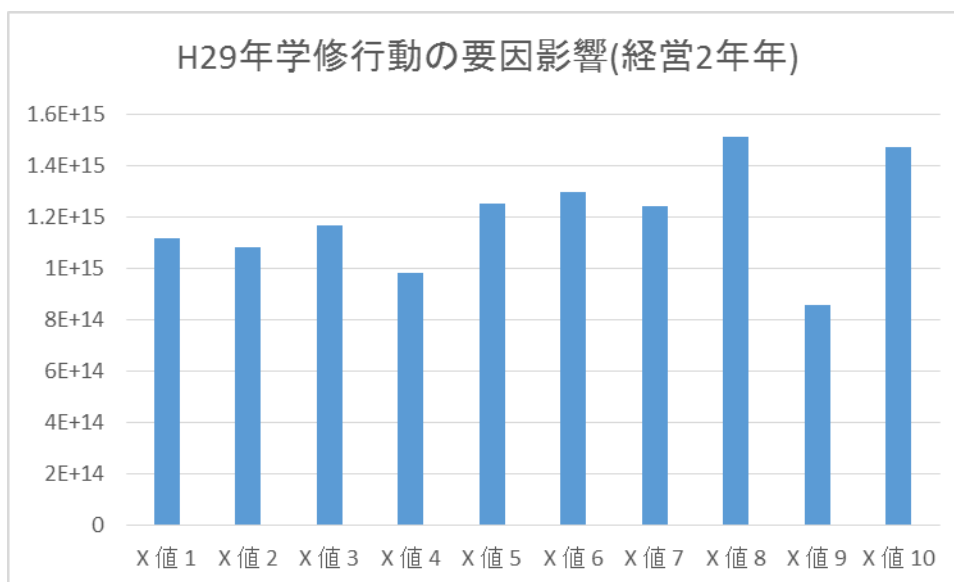


図 15 総合経営学科 2 年 学修行動の影響を与えている要因

図 15 では質問 8 が一番影響を与えている。逆に質問 9 が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

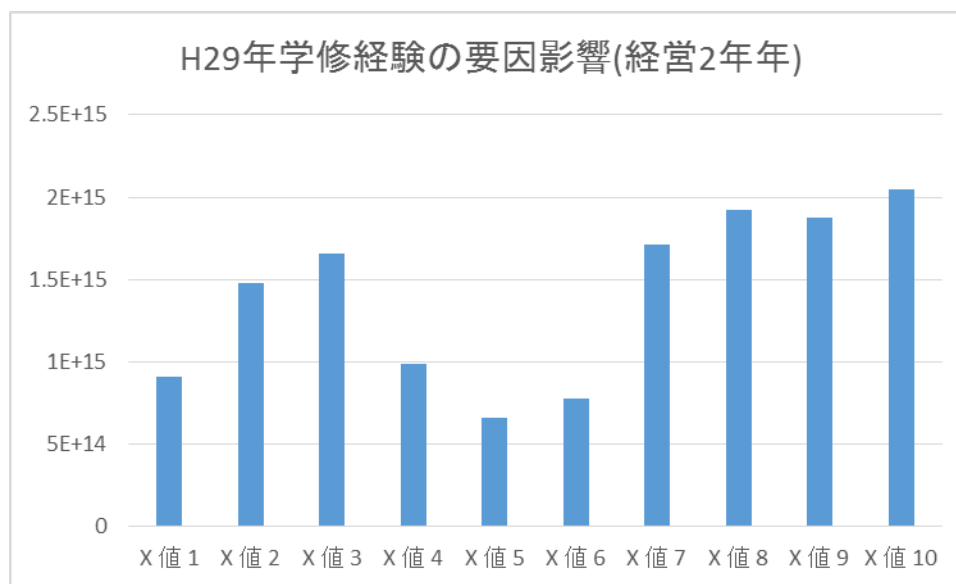


図 16 総合経営学科 2 年 学修経験の影響を与えている要因

図 16 では質問 20 が一番影響を与えている。逆に質問 15 が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

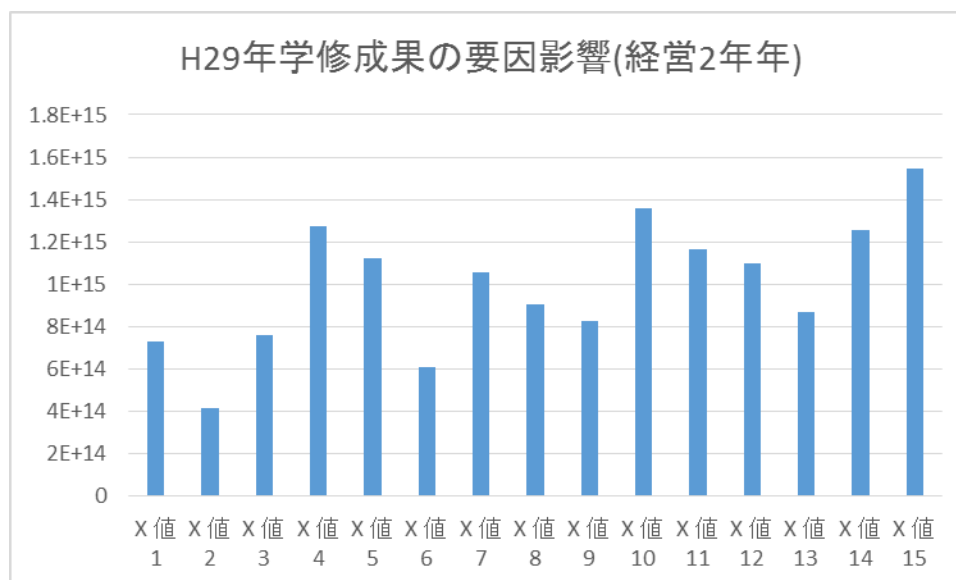


図 17 総合経営学科 2年 学修成果の影響を与えている要因

図 17 では質問 35 が一番影響を与えている。逆に質問 22 が小さい。

⑧ 大学院 2年

■学修行動

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

■学修経験

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

■学修成果

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = \#NUM!$  分析不能

## ⑨ デザイン学科3年

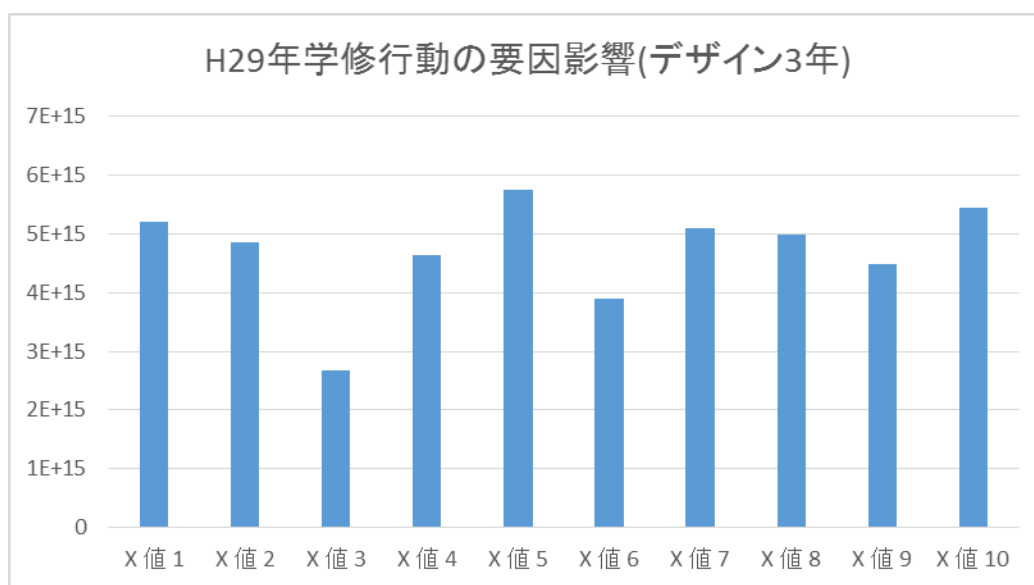
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$ 

図18 デザイン学科3年 学修行動の影響を与えている要因

図18では質問5が一番影響を与えている。逆に質問3が小さい

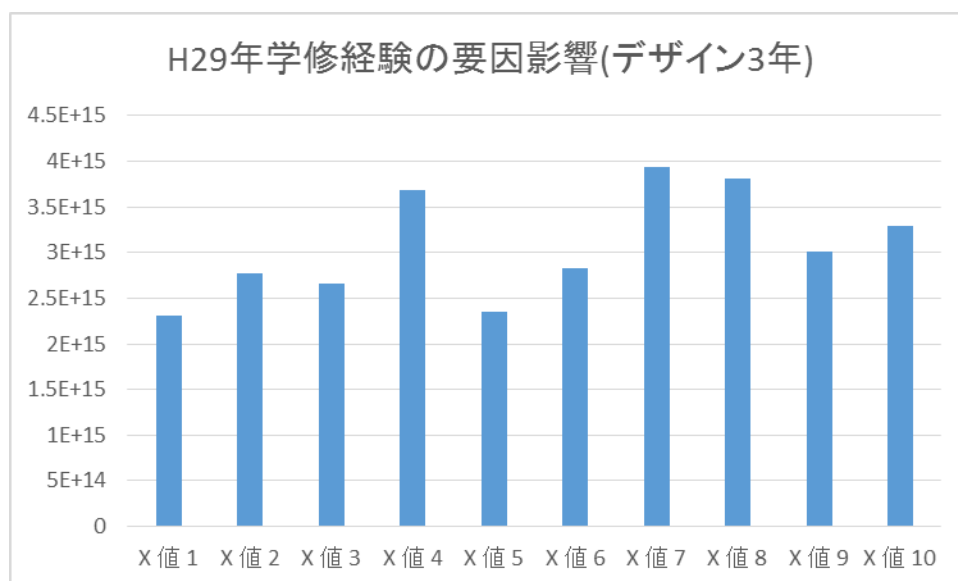
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$ 

図19 デザイン学科3年 学修経験の影響を与えている要因

図19では質問17が一番影響を与えている。逆に質問11と質問15が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

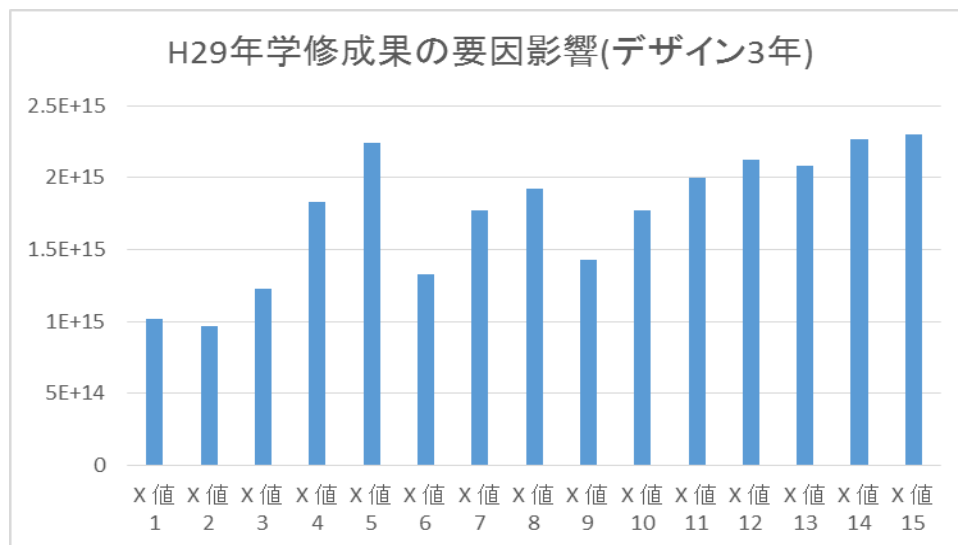


図 20 デザイン学科 3年 学修成果の影響を与えている要因

図 20 では質問 25 と質問 34 と質問 35 が影響を与えている。逆に質問 21 と質問 22 が小さい。

⑩ 建築学科 3年

全て未回答のためデータがなく分析ができない。

⑪ 総合経営学科 3年

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

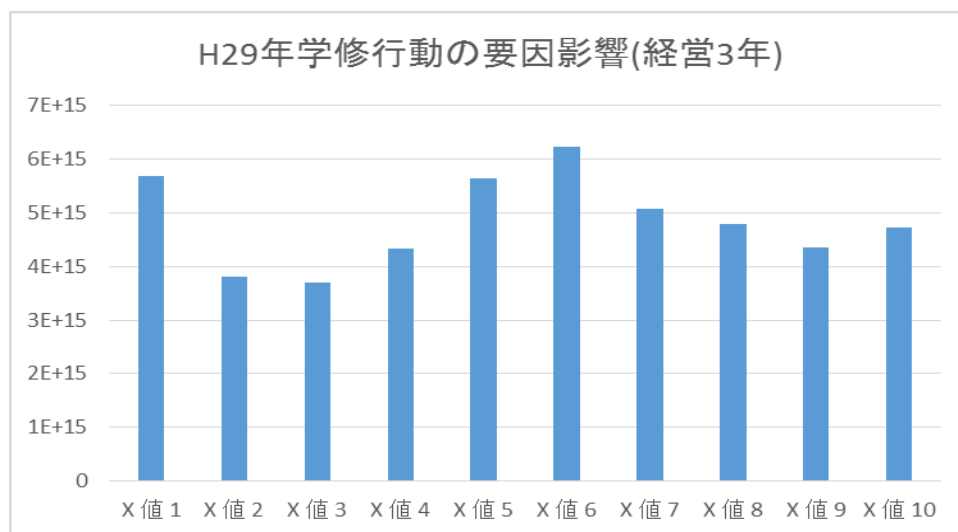


図 21 総合経営学科 3年 学修行動の影響を与えている要因

図 21 では質問 6 が一番影響を与えている。逆に質問 2 と質問 3 が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

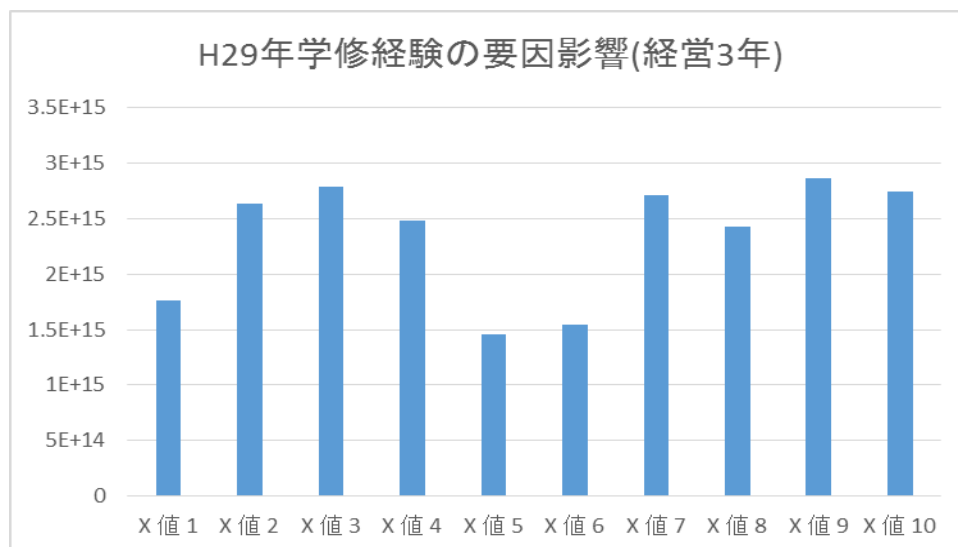


図22 総合経営学科3年 学修経験の影響を与えている要因

図22では質問13、質問19が強く影響を与えている。逆に質問15と質問16が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

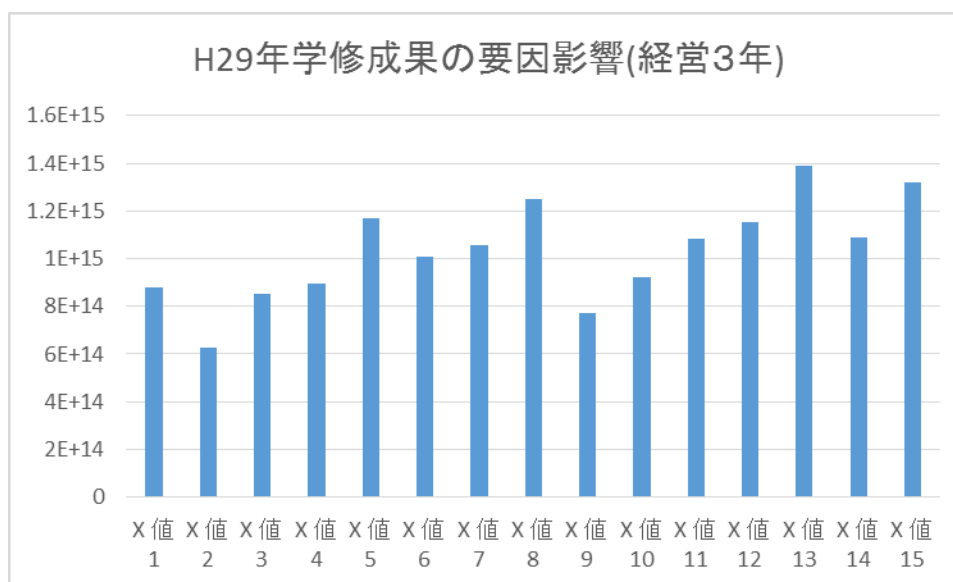


図23 総合経営学科3年 学修成果の影響を与えている要因

図23では質問33が一番影響を与えている。逆に質問22が小さい。

## ⑫ デザイン学科4年生

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 3.8608040296937E-244 < 0.01$

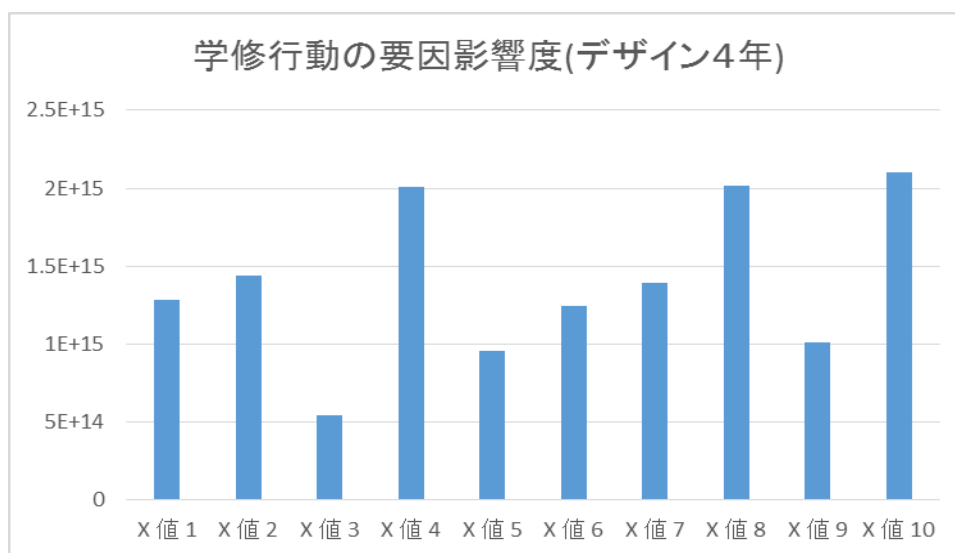


図 24 デザイン学科4年 学修行動の影響を与えている要因

図 24 では質問 10 が一番影響を与えている。逆に質問 3 が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 7.35180882095952E-255 < 0.01$

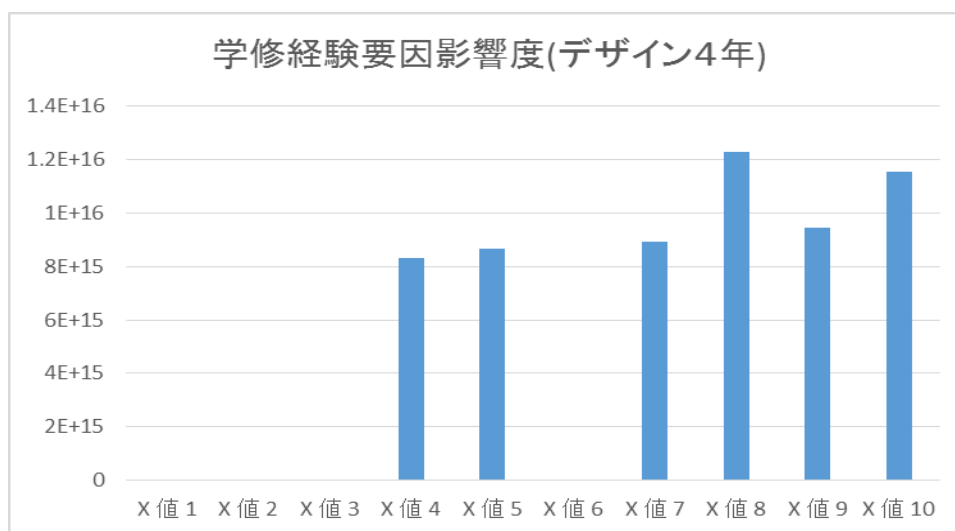


図 25 デザイン学科4年 学修経験の影響を与えている要因

図 25 では質問 18 が一番影響を与えている。逆に質問 11 と質問 12 と質問 16 が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 9.71401648493446E-172 < 0.01$

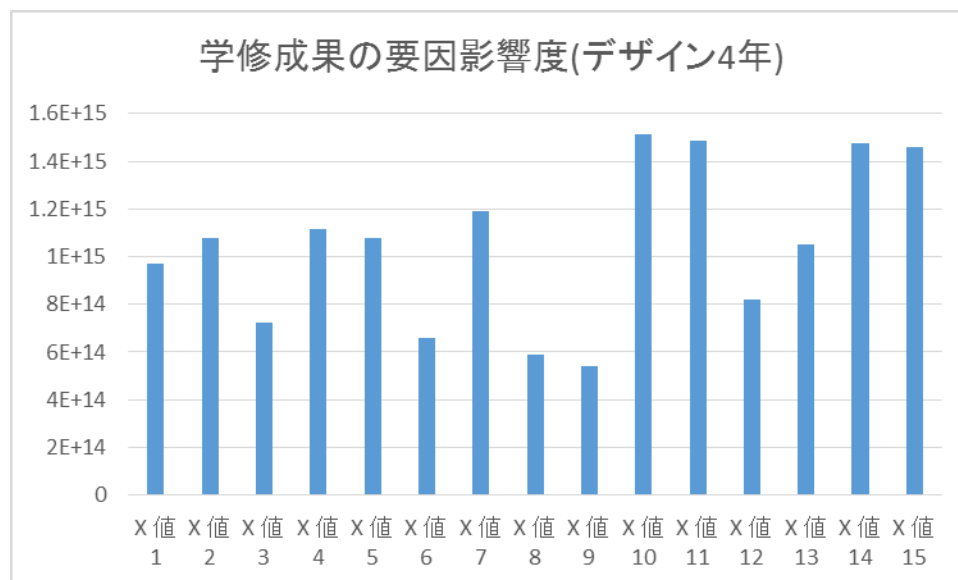


図 26 デザイン学科4年 学修成果の影響を与えている要因

図 26 では質問 30 が一番影響を与えている。逆に質問 29 が小さい。

⑬ 建築学科4年

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 1.02428404822574E-187 < 0.01$

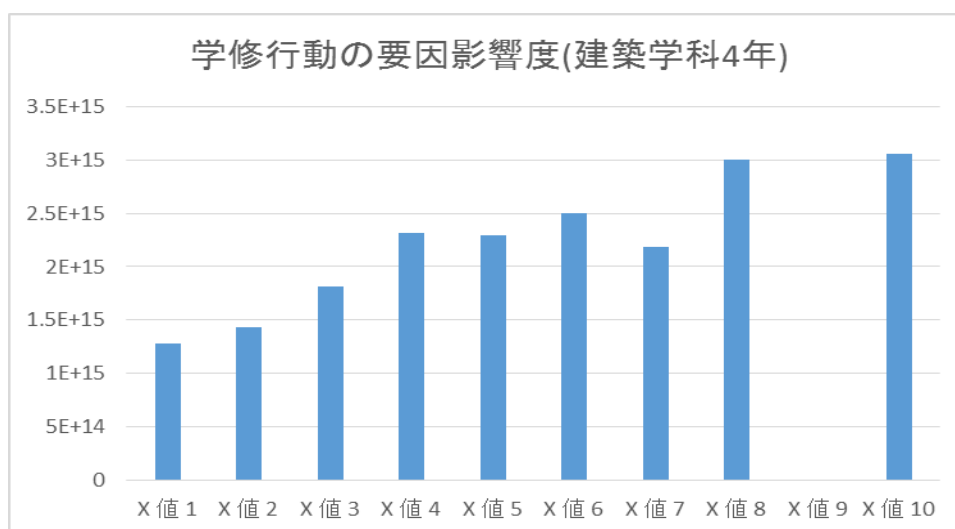


図 27 建築学科4年 学修成果の影響を与えている要因

図 27 では質問 10 と質問 8 が強く影響を与えている。逆に質問 9 が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 1.10869471543607E-186 < 0.01$

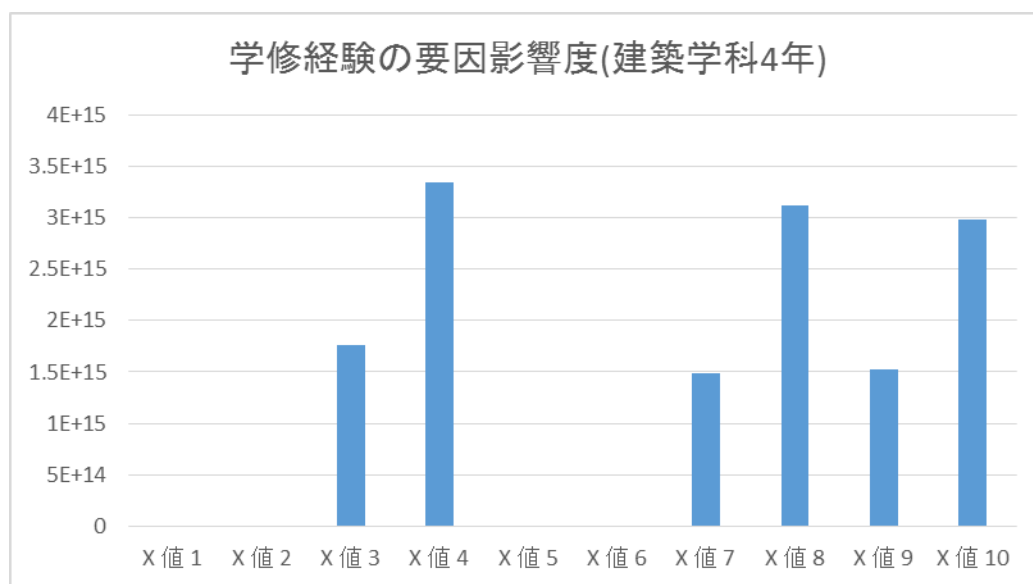


図28 建築学科4年 学修経験の影響を与えている要因

図28では質問14が一番影響を与えている。逆に質問11と質問12と質問15、質問16が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 6.45883173043694E-109 < 0.01$

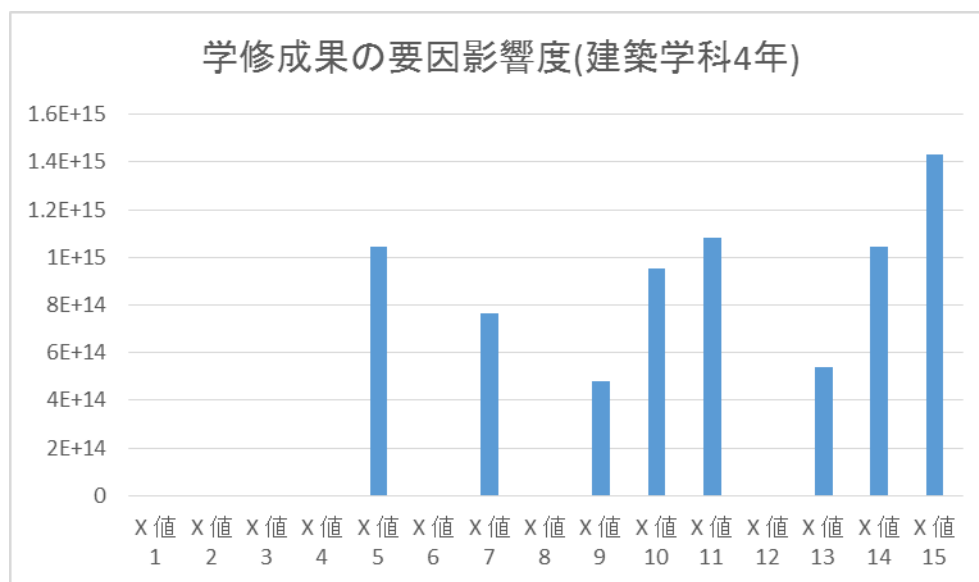


図29 建築学科4年 学修成果の影響を与えている要因

図29では質問35が一番影響を与えている。逆に質問21と質問22と質問23、質問24、質問26、質問28、質問32が小さい。



## ⑭ 総合経営学科4年

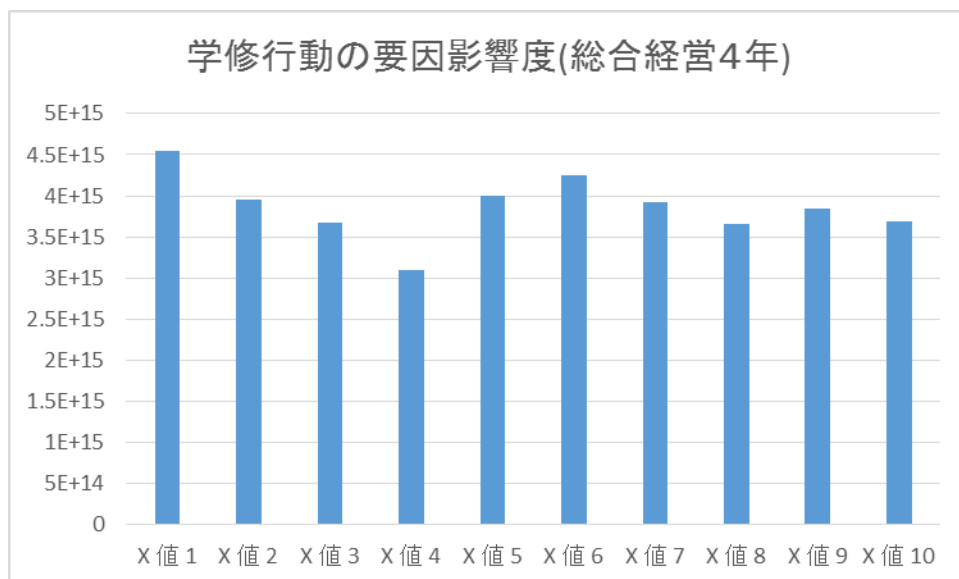
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$ 

図30 総合経営学科4年 学修行動の影響を与えている要因

図30では質問1が一番影響を与えている。逆に質問4が小さい。

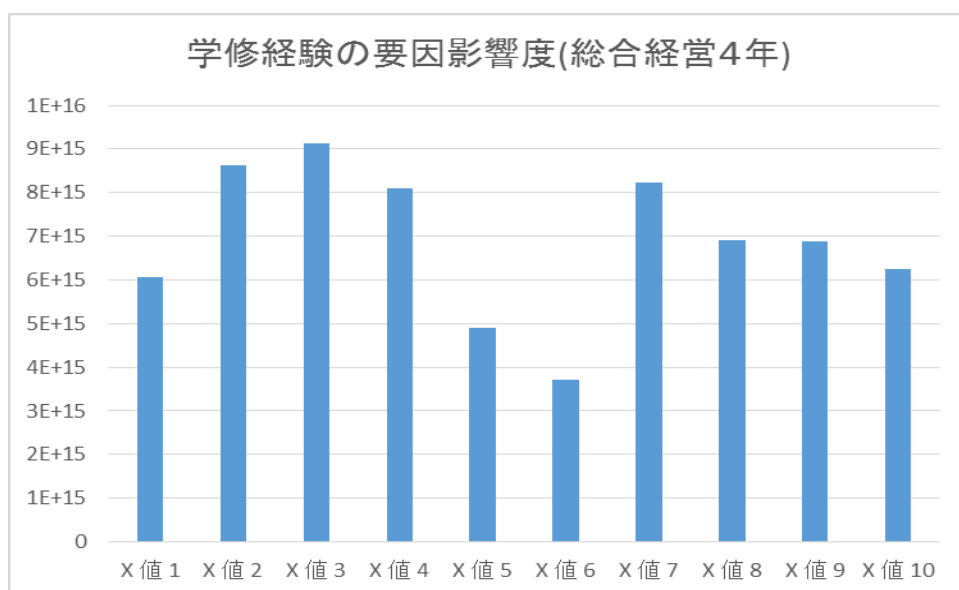
重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$ 

図31 総合経営学科4年 学修経験の影響を与えている要因

図31では質問13が一番影響を与えている。逆に質問16が小さい。

重決定  $R^2 = 1 > 0.8$  有意  $F = 0 < 0.01$

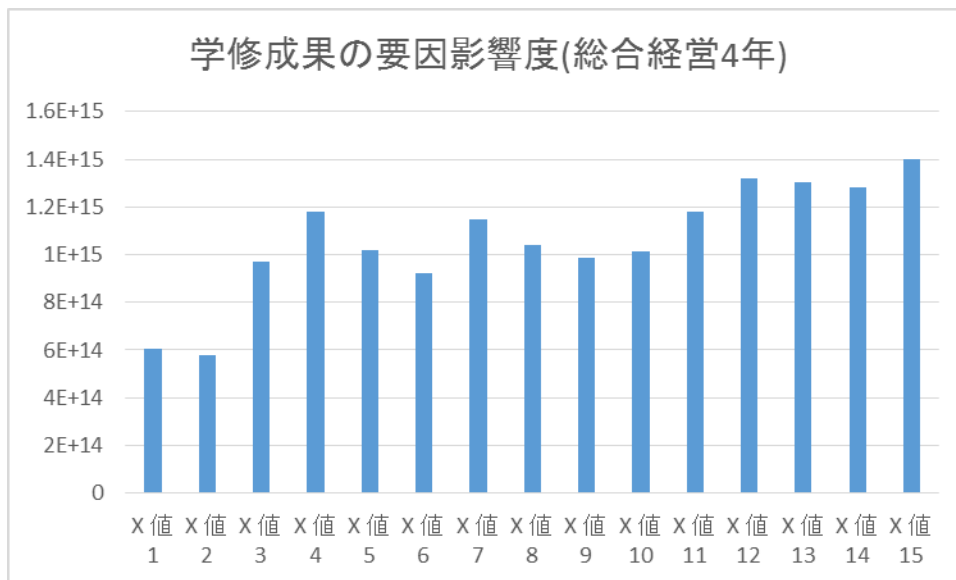


図 32 総合経営学科 4 年 学修経験の影響を与えている要因

図 32 では質問 35 が一番影響を与えている。逆に質問 22 が小さい。

## (2)平成 28 年度から平成 29 年度までの推移

ここでは各学科の同じ学生が 1 年生から 2 年生へ、2 年生から 3 年生へ、3 年生から 4 年生へと変わったときの「学習行動」、「学習経験」、「学修成果」を学科ごとに平均したものを示す。学生が成長したと感ずるかどうかの目安となる。

### ① デザイン学科

表 2 デザイン学科の推移

	H28年学修行動	H29年学修行動	H28年学修経験	H29年学修経験	H28年学修成果	H29年学修成果
4年	7.8	8.1	7.7	8.1	7.7	7.6
3年	7.3	7.0	7.2	7.6	7.3	7.4
2年	6.6	7.9	8.3	8.6	7.5	7.7

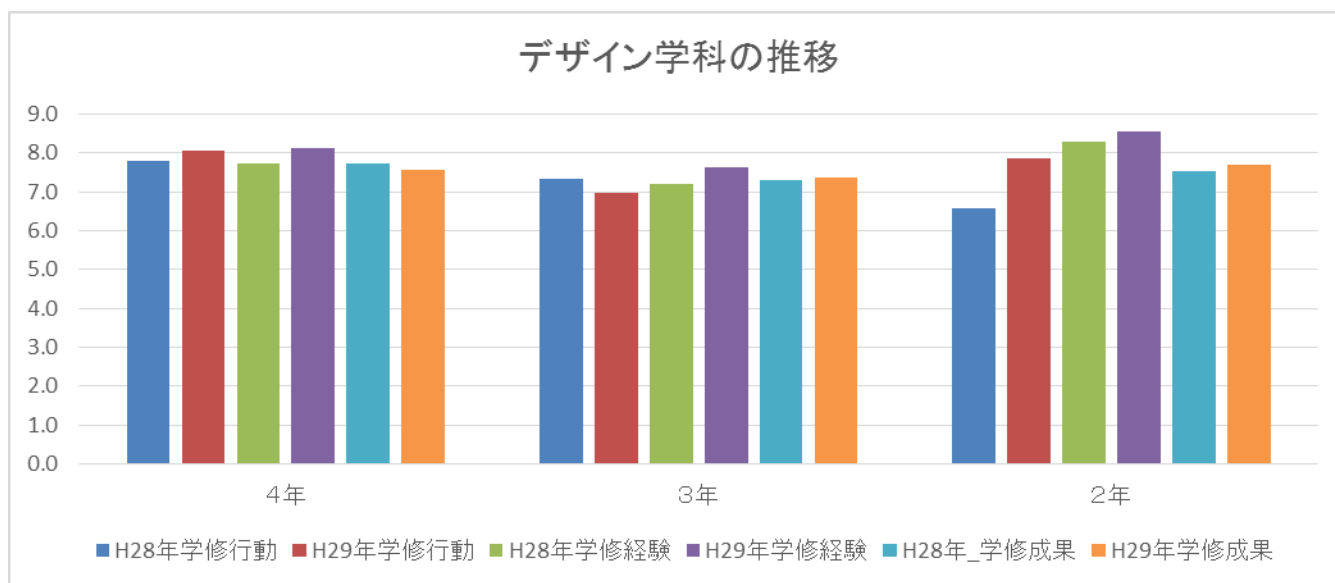


図 33 デザイン学科の推移

H28年度より H29年度の方がわずかであるが数値は上がっている。

② 建築学科

表 3 建築学科の推移

	H28年学修行動	H29年学修行動	H28年学習経験	H29年学修経験	H28年学修成果	H29年学修成果
4年	6.7	8.0	8.0	8.4	8.3	9.2
3年	5.4	#DIV/0!	6.5	#DIV/0!	6.6	#DIV/0!
2年	6.0	6.0	6.1	8.3	7.1	6.6

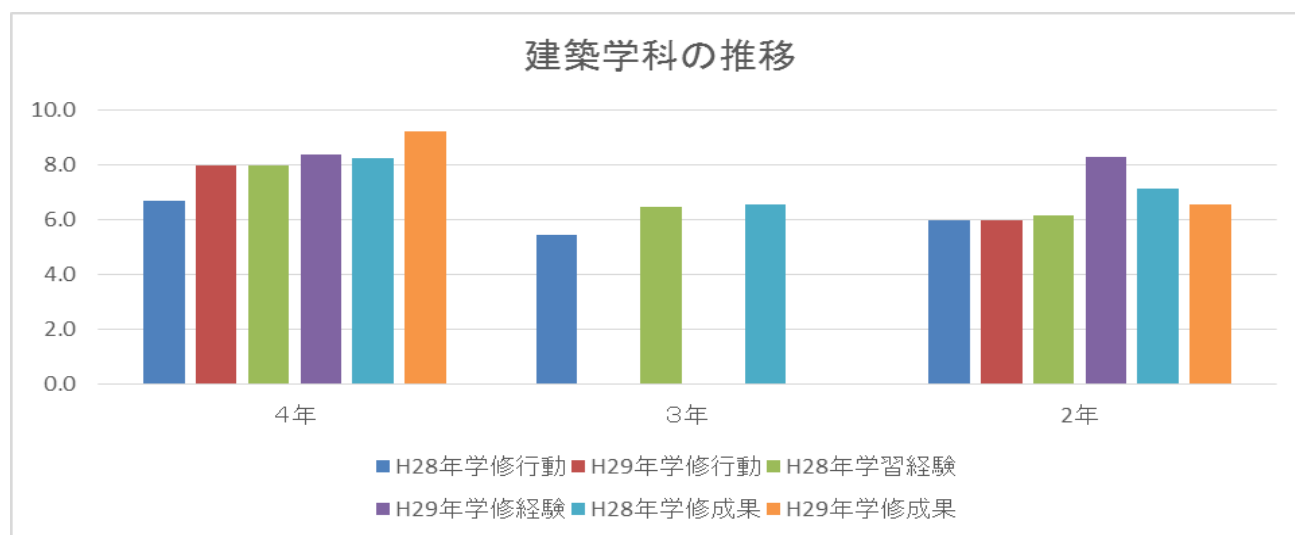


図 34 建築学科の推移

4年生では、H28年度よりH29年度の方が数値は上がっている。

## ③ 総合経営学科

表 4 総合経営学科の推移

	H28年学修行動	H29年学修行動	H28年学修経験	H29年学修経験	H28年学修成果	H29年学修成果
4年	6.3	6.4	6.8	7.0	7.8	7.4
3年	7.0	6.8	7.3	7.3	7.5	7.6
2年	6.6	7.4	7.7	8.2	7.5	7.8

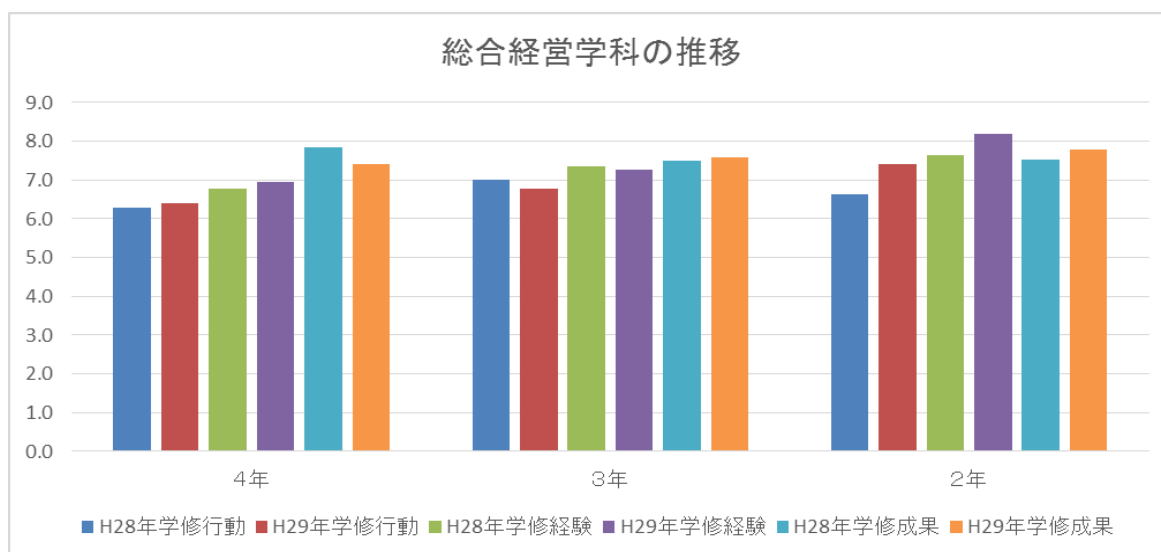


図 35 総合経営学科の推移

1年生から2年生になったときは翌年度の方が数値は高いが、2年生から3年生になったときから逆転現象が起きている。対処方法としては、重回帰分析で述べた値の小さい項目を重点的に実施することを望む。

#### 4. 資料

##### (1) 質問事項

学修行動調査（平成29年度）

###### 【設問Ⅰ】

授業に関して質問します。

次のようなことを経験する機会がありましたか

問1.予習・復習・宿題のために文献や資料を調べましたか

問2.教員は、授業内容と社会や日常生活の関わりについて説明したことがありますか

問3.自分の考えや研究を発表する機会がありましたか

問4.仕事に役立つ知識や技術を学んだと思いますか

問5.授業中に、他の学生と議論したことはありますか

問6.実験、実習、フィールドワークなど、体験的に学んだことがありますか

問7.授業内容について教員に質問したことがありますか

問8.授業の進め方について教員に意見を述べたことがありますか

問9.取りたい授業が取れるよう計画しましたか

問10.授業で検討するテーマを提案したことがありますか

###### 【設問Ⅱ】

授業と授業以外の学習に関して質問します。

次のようなことを経験する機会がありましたか

問11.授業課題のためWeb上の情報を利用したことがありますか

問12.授業をおもしろく（楽しく）感じたことがありますか

問13.授業時間外に他の学生と一緒に勉強したり授業内容について話したりしたことがありますか

問14.授業課題のために図書館（本学外も含む）を利用したことがありますか

問15.インターネット（UNIPAを含む）で授業課題を受けたり、提出したりしたことがありますか

問16.できる限り、授業に出席するように努めましたか

問17.教員に親近感を感じたことがありますか

問18.授業中、積極的に質問したことがありますか

問19.提出期限までに授業課題を完成できましたか

問20.授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えたことがありますか

###### 【設問Ⅲ】

大学入学時と比べて考えてみてください

「学習態度、知識」は身につきましたか

問21.パソコンで文書・資料を作成できるようになりましたか

問22.指定された形式に従ったレポートが書けるようになりましたか

問23.授業の重要なところを理解しノートに書くことができるようになりましたか

問24.教養が身についたと思いますか

問25.自分から人間関係をつくることができるようになりましたか

問26.レポート等、自分の意見と他人の意見や事実を区別して書けるようになりましたか

問27自分の専門に関する知識や技術が身についたと思いますか

問28物事の問題点を見つけることができるようになりましたか

問29うわさや、情報を鵜呑みにせず受け止めることができるようになりましたか

問30自分の意見を筋道立てて表現することができるようになりましたか

問31グローバルな課題への関心を持つことができるようになりましたか

問32地域的な課題への関心を持つことができるようになりましたか

問33自ら学習する習慣が身についたと思いますか

問34プレゼンテーション力が身についたと思いますか

問35 必要な場合、リーダーシップを発揮することができると思いますか